

日仏科学フォーラムと IHES 支援募金について

松本 幸夫 (学習院大学理学部)

2008 年は日仏修好通商条約が締結されてから 150 年目の年であり、また、フランス高等科学研究所 (IHES) が創立されてから 50 年目の年に当たります。これを機に 2008 年 10 月 4 日から 10 日にかけて「日仏科学フォーラム」という学術的会合が催されました。また、IHES 日本基金創設のための募金活動が行われました。この二つの活動についてご報告いたします。

1. 経緯

IHES の日本基金を創設することと日本とフランスの共同の学術的な催しをしたいというアイデアは IHES から出され、これを支援する形で日本での活動が少しずつ始まったのは 2006 年の初めからと聞いています。IHES との人的なつながりの関係から、日本での支援の中心となったのは BNP パリバ証券会社 (BNP PARIBAS) でした。同社の在日代表の安田雄典氏が支援委員会の委員長となり、同社顧問の与謝野達氏が事務局をつとめる体制で支援活動がスタートしました。支援委員会のメンバーに廣中平祐先生が入っていらっしゃいます。またカルロス・ゴーン日産・ルノー社長をはじめとする財界の有力者が名前を連ねています。フランス大使館からも、当時のル・リデック駐日大使、ジャン・ルイ アルマン科学技術担当参事官もオブザーバー参加しています。

個人的な話で恐縮ですが、私が支援活動に加わるようになったきっかけは、数学とも財界とも関係なく、2007 年の新春にラテン語について話が聞ける集まりがあったので、面白そうだと思って出かけて行ったところ、そこでたまたま与謝野氏と知り合ったという全くの偶然からでした。「数学をやっています」と自己紹介してからは、少しずつ相談を受けるようになりました。

話を聞くうち、支援委員長の安田氏が社会における数学の重要性を強く認識されていることに感銘を受けました。たとえば財界向けの支援委員会の説明書に、純粋数学振興の必要性を力説し、「純粋数学の先端研究は、応用と収益に直ちにむすびつかず、また分かりづらいため、企業関係者の関心が薄い」ことを指摘した上で、いろいろな分野で純粋数学の成果が利用されていることをあげ、「この分野での立ち遅れは、長期的に見て、日本の国際競争維持のためにマイナスである」と述べています。「数学分野での発見は、パテントといった形を取らず、・・・数学界は、無償で万人のための公共財を提供しているということも出来ます」と述べておられるのを読んで、このように明確に純粋数学支持を表明される経済人がいることに

驚きを感じました。それまで持っていた経済人についてのイメージが変わった気がしました。また、フランス大使館の人からも「理論科学の研究所がフランスにあることを誇りとするが、それを国威発揚の手段にしようとは思わない」と言うのを聞いて感心したこともあり、私も及ばずながら協力したいという気持ちになりました。

支援活動にとって幸いだったのは、日本数学会の 2007 年秋季総合分科会（東北大学）において、IHES へ関孝和賞が授賞されたことです。IHES もフランス大使館もこれを非常に名誉なこととし、フランス大使主催の記念レセプションが開かれたほどです。

この授賞を契機として、次第に支援活動も本格化して行きました。支援活動は IHES 日本基金のための募金活動と日仏科学フォーラムを 2 つの柱に進められることになりました。

2. 日仏科学フォーラム

2007 年から 2008 年の初めにかけて組織委員会が立ち上がり、IHES、日本数学会と日本学術振興会が正式に加わりました。メンバーには、IHES 所長のジャン・ピエール・ブルギニョン教授、日本学術振興会理事長の小野元之先生、IHES の推薦により慶応大学の前田吉昭教授、数学オリンピック財団代表の伊藤雄二先生、IHES 支援委員会委員長の安田雄典氏、前パリ日本文化会館館長の磯村尚徳氏、富士ゼロックス社最高顧問の小林陽太郎氏、東京大学の坪井 俊教授。私も日本数学会から推薦を受けて組織委員になりました。また、元科学技術庁長官の谷垣禎一衆議院議員に顧問をお願いしました。

2008 年の 2 月に開かれた組織委員会の会合で、光栄にも、ブルギニョン所長と私が共同の「チェアマン（チェアメン?）」に選ばれました。また、重要なことは、この会合で日仏科学フォーラムの次の 3 つの催しが決まったことです。

- ① 日仏の著名な学者による学術シンポジウム"Perspectives in mathematical sciences".
- ② 「経済と数学」シンポジウム.
- ③ 高校生と数学者の出会い.

まず、①についてですが、これは実行委員として、慶応義塾大学の前田吉昭、東京大学の坪井 俊、斎藤 毅、河東泰之の各教授、それに私が参加し、ブルギニョン所長と連絡を取りながら準備しました。

2008 年 10 月 7 日から 9 日まで、東京大学数理科学研究科（7 日、8 日）と慶応義塾大学三田キャンパス北館ホール（9 日）で行われました。以下にプログラムを記します。（敬称は略します。また、アクサンやウムラウトも省略します。）

10月7日

10:00-10:30 Opening

小野元之（日本学術振興会理事長）、平尾公彦（東京大学副学長）、
谷島賢二（日本数学会理事長）各氏の挨拶。

10:30-11:30 Etienne Ghys (CNRS-ENS Lyon) Extactic points

11:45-12:45 Shigeyuki Morita (The University of Tokyo) Higher symplectic pairings and
invariants in low dimensional topology

14:00-15:00 Nikita Nekrasov (IHES) Moduli space, supersymmetric gauge theories, and
quantum integrable systems

15:30-16:30 Yoh Iwasa (Kyushu University) Modeling Morphogenesis in Development

16:45-17:45 Annick Lesne (CNRS-IHES) Mathematics of gene regulation

18:00 東京大学駒場キャンパス内でレセプション。

10月8日

10:00-11:00 Kazuya Kato (Kyoto University) Classifying spaces of degenerating p-adic
Hodge structures

11:15-12:15 Claire Voisin (CNRS-IHES) Hodge theory and cohomology algebras of
Kaehler and projective manifolds

14:00-15:00 Motoko Kotani (Tohoku University) Geometric Aspects of Random Walks on
a Crystal Lattice

15:30-16:30 Yong-Geum Oh (University of Wisconsin-Madison) Floer homology and
dynamics of Hamiltonian flows

16:45-17:45 Tohru Eguchi (YITP, Kyoto University) Superconformal algebra and mock
theta function（10月7日に南部陽一郎，小林 誠，益川敏英，三氏のノーベル
物理学賞受賞のニュースが飛び込み，江口氏が急遽京都に帰られることになった
ため，講演はキャンセルになりました。）

10月9日

10:00-11:00 Maxim Kontsevich (IHES) BPS counting as a hyperkaehler metric

11:15-12:15 Kenji Fukaya (Kyoto University) Mirror symmetry of toric A-model and
Landau-Ginzburg B-model

13:30-14:30 Dirk Kreimer (CNRS-IHES) Taming infinity: Physics at short distances

14:45-15:45 Heisuke Hironaka (Japan Association of Mathematical Sciences) TBA（実際
には，標数 p の特異点の解消について講演されました。）

16:00-16:20 Closing 松本幸夫（学習院大学）の挨拶。

16:30-17:00 慶応義塾大学からブルギニョン教授への名誉学位授与式

17:00-18:00 Jean-Pierre Bourguignon (IHES) Mathematics, a thriving science

その後、慶応義塾大学北館にてレセプション。

②についてですが、**Mathematics, as Key for Innovation in Industry**（産業技術のイノベーションの鍵となる数学）と題するシンポジウムが10月10日に経団連会館で行われました。座長/モデレーターをブルギニョン教授と東京大学の儀我美一教授が務められました。儀我教授と儀我美保氏には、このシンポジウムの準備に関して大変お世話になりました。

以下、プログラムです。（敬称は略します。）

14:00-14:15 開会挨拶

第一部

14:15-15:45 「産業界はなぜ数学者のインプットを必要としているのか」

基調講演 岡本龍明 (NTT 情報流通プラットフォーム研究所), Philippe LACOUR-GAYET (シュルンベルジェ社), 加藤康之 (野村証券)

ラウンドテーブルディスカッション 岡倉伸治 (経済産業省産業技術開発局) および講演者

第二部

16:15-17:45 「数学者と産業関係者の実りあるコラボレーションを可能にするためには」

基調講演 山本昌宏 (東京大学), 山崎 哲 (豊田中央研究所)

ラウンドテーブルディスカッション 大竹 暁 (文部科学省研究振興局) および講演者

なお、このシンポジウムの前に、「日仏数学者、経済人、政策担当者による午餐会」が経団連会館であり、約24名が参加し、磯村尚徳氏がモデレーターを務められました。

シンポジウム終了後は、経団連会館において支援委員会と後述の募金委員会共催のクロージング・レセプションが開催され、数学者、財界人をはじめ関係者約200名の参加を得て盛会でした。顧問の谷垣禎一氏も駆けつけて、挨拶をしてくれました。席上、IHES 日本基金に3,400万円もの高額の寄付をした日本情報産業と創業者下川幸嗣氏のご遺族に募金委員長の張富士夫氏とブルギニョン所長から感謝状が贈られました。IHESはこの寄付をもとに「シモカワ・フェロウシップ」を立ち上げることにしたとのことです。

③についてですが、実はこれが最初の催しでした。10月4日に東京大学数理科学研究科において行われました。準備については前田吉昭教授と伊藤雄二教授および東京大学の先生方にお世話になりました。以下、プログラムです。（敬称は略します。）

第一部 14:15-15:45

挨拶 松本幸夫, 伊藤雄二 (慶応義塾大学, 日本数学オリンピック財団)

講演 Etienne Ghys (CNRS, リヨン高等師範学校) 「Three thousand two hundred sixty-four」 (3264)

第二部 16:15-17:15

高校生と数学者の対話

廣中平祐 (数理科学振興会) Maxim Kontsevich (IHES)

総合司会 藤川英華 (千葉大学)

約 70 名の高校生が参加し、英語の講演 (田所雅之氏の同時通訳が付きましたが) にも活発な質問が出たり、廣中教授と Kontsevich 教授にも積極的に質問があったりして、現代っ子もなかなか頼もしい感じがしました。

日仏科学フォーラム開催に大変お世話になった東京大学、慶応義塾大学に感謝いたします。また、講演者、参加者の皆様をはじめ、ご協力下さった全ての方々に御礼申し上げます。

日仏科学フォーラム開催のため、次の団体から資金の提供を受けました。この場をお借りして感謝いたします。日本学術振興会、デクシア銀行、(社) 東京倶楽部、トータル社、日仏笹川財団。

3. IHES 日本基金創設のための募金活動

IHES は 2008 年の創立 50 周年を機に、その運用収益金を日本人研究者の招へい資金に充てる目的で、200 万ユーロ (当時のレートで約 3 億 2 千万円) の「フランス高等科学研究所日本基金」という名前の特別基金を創設することにしました。これが実現しますと、年間 2 名の日本人研究者が IHES に滞在することが可能になります。そして半額をフランス企業からの、残りの半額を日本企業からの寄付金で賄う計画を立てました。この募金活動の公益性に鑑み、寄付控除・損金算入の対象となることが認められています。

日本では 2007 年度中に、張富士夫トヨタ自動車会長を委員長とする募金委員会が立ちあがりました。廣中平祐先生、磯村尚徳氏も委員に加わっています。また、安田雄典氏が事務局を担当しました。

私自身は募金活動には直接携わっていませんので、ご報告する資格はないのですが、張富士夫募金委員長のリーダーシップと安田氏ほか事務局のご尽力により、100 年に一度の大不況下にも関わらず、日本での募金が 1 億円 (2 月末現在 104,984,150 円) を突破したとのこと。大変喜ばしいことです。関係者のご支援に感謝いたします。また、個人募金に応じ

て下さった方々にも感謝いたします。

この報告をまとめるに当たって、BNPパリバ証券会社の与謝野達氏、東京大学の坪井俊教授、慶応義塾大学の前田吉昭教授にいろいろとご教示いただきました。篤くお礼申し上げます。
(2009年3月13日記)

追記(i) IHES のジャパンファンドについては、2009年の7月末まで、募金の寄付控除が認められることになりました。日本数学会のホームページのフランス高等科学研究所 (IHES) ジャパンファンドの寄付要領をクリックすると、申し込み用紙が得られます。

(ii) 坪井教授が、日仏フォーラム関連事業として Jos Ley – Etienne Ghys – Aurelien Alvares が制作した Dimensions というビデオの DVD の日本語吹き替えを行い、日本語版 DVD (DL:PAL 規格) を作成されました。これについては

http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/users/dim_jp/

をご覧ください。(dim と jp の間に下付のハイフンが入ります。)

(iii) Perspectives in Mathematics の報告 DVD があります。将来公開予定ですが、IHES のホームページ

<http://www.ihes.fr/jsp/site/Portal.jsp>

をご覧ください。